

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	〃0176400034
法人名	社会福祉法人 萌寿会
事業所名	グループホーム 萌寿園
所在地	留萌市沖見町6丁目18番地6 (電話) 0164-43-6822

評価機関名	(有)NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成 21 年 12 月 1 日

## 【情報提供票より】( 21年 10月 1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1 月 10 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

### (2)建物概要

建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		1,000 円		

### (4)利用者の概要( 12月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.8 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	留萌市立病院 ・ 川上歯科クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

留萌市の高台に立地し、敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所が併設されています。居間から、日本海が一望でき、景色を楽しめる自然に恵まれた環境にあります。共有空間はゆったりとしており、回廊式の廊下や居間や玄関口には、職員と利用者の共同作品のちぎり絵が飾られ、また、ソファや椅子が置かれ、くつろげるスペースが確保されています。職員は皆、明るく、利用者は職員を頼りにし、お互いが気遣い支え合う関係が伺えます。利用者の細かな状況報告を、毎月の「便り」にし、家族からも安心できると喜ばれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果は、改善計画シートを利用し、優先順位をつけて取り組まれています。家族とのコミュニケーション作りでは、家族との行事の機会を作り、災害対策は、緊急連絡体制、避難経路確認確保、救急救命講習全職員受講、夜間想定訓練が行なわれ、介護計画では、細かな記録が出来るよう書式の見直しがされています。その他の改善項目は引き続きの課題とし、取り組まれています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が、簡素化した自己評価表を全職員に配布し、記入がなされ、管理者がまとめ自己評価表が作成されています。出来上がった自己評価は、全職員が目を通し確認がされています。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年度、第1回運営推進会議が町内会長、家族代表、市の介護保険課、民生委員、法人代表を運営委員とし開催され、今年度も計画されていましたが、現在までのところ、開催に至っていません。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時、声かけにより、意見、要望が言えるよう配慮がなされています。毎月、利用者の身体状況、介護状況、日常生活、介護計画、行事案内や報告、職員の異動、離職等細かな情報を、「個人便り」で家族に報告しています。また、家族の来訪時には、介護記録を用いての報告、来訪されない時は電話などでも報告がされています。また、金銭出納は、2ヶ月に1回領収書を郵送し、報告がされています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>今年度は、インフルエンザの流行により、毎年予定されている、地域小学校や幼稚園との交流が取り止めとなり、隣接されている法人の行事にのみ、参加となっています。法人が町内会、自治会に加入し、地域の情報を収集し、交流の機会が持てるようグループホームでも検討がされています。</p>

(有)NAVIRE

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立法人が掲げている理念を、グループホームでも共通理念としています。今年度、設立法人が理念の見直しを行い「明るく、楽しい家庭生活を目指す」と変更し、それに伴いグループホームも地域密着型サービスとして、独自の理念を検討する機会を作り取り組む予定となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	グループホーム内に理念が掲示され、会議やミーティングを利用し、理念の共有がされています。職員は理念を十分に理解し、日々のケアに取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度は、インフルエンザの流行により、毎年予定されている、地域小学校や幼稚園との交流が取り止めとなり、隣接されている法人の行事にのみ参加となっています。地域との災害時の協力体制は地域住民組織の「災害協力会」と、連携を図りながら協力体制が築かれています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が、簡素化した自己評価表を全職員に配布し、記入がなされ、管理者がまとめ自己評価表が作成されています。出来上がった自己評価は、全職員が目を通し確認がされています。前回の外部評価結果は、改善計画シートを利用し、優先順位をつけて取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度、第1回運営推進会議が町内会長、家族代表、市の介護保険課、民生委員、法人代表を運営委員とし開催され、今年度も計画されていましたが、現在までのところ、開催に至っていません。	○	開催日の調整等、困難な状況の中でも開催実現に向け、開催方法を再度検討されていくことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人を通して、市のケースワーカー、ケアマネ連絡会等と連携に努めています。市で開催される研修会への参加や市からの依頼で実習生の受け入れがされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の身体状況、介護状況、日常生活、介護計画、行事案内や報告、職員の異動、離職等細かな情報を、「個人便り」で家族に報告しています。また、家族の来訪時には、介護記録を用いての報告、来訪されない時は電話などでも報告がされています。また、金銭出納は、2ヶ月に1回領収書を郵送し、報告がされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への日々の声かけ、利用者家族の来訪時の声かけにより、意見、要望が言えるよう配慮がなされています。家族と共にケアが出来るよう受診時の立会いや介助の協力も得られています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着度も良くなっています。新人採用時には、1ヶ月程2名体制で十分な引き継ぎや指導がされています。利用者にもきちんと紹介するなど、ダメージを防ぐように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での各会議、ミーティング内で研修がされています。また、道北老人福祉協議会や北海道社会福祉協議会の外部研修にも参加し、その後、回覧で職員全員が見ることによって共有がなされ、日々のケアに活かされています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の電話による意見交換や施設見学等にとどまり、職員レベルとして交流は行われていません。法人内の施設職員との交流や協力は、密に行われています。	○	他施設の同業者との交流を通し、職員の育成に役立つ情報交換のときとし、サービスの向上に繋がって行くことを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、ご家族に、グループホームを見学してもらい、納得してもらえるようご家族とも相談しています。個々に合わせた入居方法で対応し、利用者が安心して過ごせるよう努力されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、日々一緒に過ごす中で学び、支えあうことを実践されています。トマトの収穫取り、畑での大根作り、食事の後片付け、ちぎり絵、にしん漬けなど、利用者と職員が一緒に行なうことによって支えあう関係を築いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりの中で、利用者本人の思いや希望、意向の把握に努め、希望に沿った生活支援を行っています。担当を決め、ミーティング等を通して、職員間で情報の共有がなされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、月一回行われるケア会議や毎日のミーティングにおいて、職員全員の意見交換を経て作成されています。介護記録の書式の見直しも行なわれ、経過のみならず、細かな状況の記録ができるものになっています。	○	介護記録の書式見直しにより実績・結果・気づき・様子などの記録がされていますが、介護計画と連動した記録となるよう工夫されることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者・ご家族の希望を取り入れつつ、6ヶ月に1度の見直しや状態変化に合わせて、その都度検討、見直しが行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の希望や状況に応じて、通院、買物、ドライブ、馴染みの美容室に出掛ける等、出来る限りの柔軟な対応に心掛けて支援がされています。今年度は、インフルエンザの流行により、ドライブ行事等が取り止めとなり、理美容に関しても訪問理容を使う等の配慮がされています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医との連携を大切に、安心して受診できるよう支援がされています。受診後の変化のない場合には、毎月の便りで状況報告を行い、変化があった場合には、受診後すぐに電話で報告がされ、ご家族との情報の共有に努力されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、その状況になった場合に、家族やかかりつけ医と話し合い、方針を共有する体制をとっています。	○	利用者の状況に合わせ、できるだけ早期に本人、家族等と話し合い、どこまで、グループホームで支援するかの方針を確認されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の性格、個性を十分に把握し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、ケアの統一が図られています。また、個人記録の保管場所の管理もされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の状態に合わせた対応がされています。希望に出来る限り副うことが出来るよう支援がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、また、職員と一緒に、盛り付け、配膳、下膳、後片付けも行われています。菜園で収穫された野菜の利用や食材買出しに利用者も同行し、その日の食事メニューやおやつの変更も可能で、希望を可能な限り取り入れる努力がされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴ができるよう支援がされています。利用者のその日の状況や本人の希望を確認し、入浴方法も、家族と相談し、個々に合わせた対応がされています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員と一緒に、ホーム内の季節の飾り物を作成したり、ちぎり絵や書道のクラブを作るなどし、楽しまれています。完成作品をホーム内に展示しています。月に1度、運動、体操やレクリエーションも行なわれています。	○	ADLの低下を防ぐためにも、毎日の軽い運動の取り組みを検討されることを期待します。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事に、ドライブや外食等外出行事を計画しましたが、インフルエンザの流行により、今年度は、5月に外食を実施、その他は、月に1回程度、法人の特別養護老人ホームの方々との交流にとどまっています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されていません。ホーム玄関内ドアに、ドアベルの設置がされています。外出傾向にある場合の対応も、隣接の法人職員の見守り応援等で、安全面に配慮しながら支援がされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者も参加し、避難訓練が行われています。また、夜間想定訓練も行なわれています。全職員が救命講習を受講し、昨年度よりの課題のグループホーム独自の連絡網や避難経路確認確保もされています。地域住民組織の「災害協力会」と、連携を図りながら協力体制が築かれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の水分摂取量や食事量の確認、個々の身体状態に応じた食事形態、介助の支援がされています。栄養価についても、法人栄養士にチェックをお願いし、実践されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しが十分に取り入れられ、明るく、暖かく居心地よい共用空間となっています。回廊式の廊下も巾が広く、各所に一人掛けや数人掛けの椅子もあり、ホーム内でその時々のお気持ちに合わせ、過ごすことが出来るように配慮されています。広くゆったりとした居間や廊下、対面式で対話のできる台所など、開放的な造りとなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室内は、それぞれ利用者の使い慣れた家具や写真、仏壇、飾りものが自由に持込まれ、自分らしく配置されています。		